

200801016A (DVD2枚有り)

**厚生労働科学研究費補助金**

**政策科学総合研究事業**

**保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究**

**平成20年度総括研究報告書**

**研究代表者 秋田 喜代美**

**平成21(2009)年 3月**

## 目 次

I. 総括研究報告	
保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究	1
秋田喜代美	
II. 分担研究報告	
1. SICS の理念と国際的な利用動向	6
秋田喜代美	
(資料1) Ferre Laevers 教授講演資料 (2009年2月21日、24日)	
(資料2) Ferre Laevers 教授講演資料 (2009年2月23日)	
2. 日本版 SICS の作成と園内研修利用	46
芦田 宏	
(資料1) 「保育の質に関する項目作成調査」アンケートの結果	
(資料2) 子どもたちのエピソードから始める自己評価法 実施の手引き	
(資料3) 日本版 SICS の作成	
3. 西南学院早緑子供の園での実施から考える日本版 SICS	98
門田理世	
(資料1) 研究発表資料	
(資料2) 保育者による Form A (エピソード記録及びその評定)	
4. OECD 諸国における保育の質と評価に関する動向	106
鈴木正敏	
5. アメリカ合衆国における保育の質の捉え方及び研究の動向	112
門田理世	
(資料1) 幼児期における数学評価ツール	
(資料2) 幼児教育で用いられているカリキュラムの評価	
6. クラスルーム評価システム (CLASS) の検討ー日本版 SICS との比較ー	129
野口隆子	
7. 日本における保育評価の伝統と台湾における保育評価の動向	136
小田豊	
(資料1) 日本保育学会自主シンポジウム資料 (天野珠路)	
(資料2) 日本保育学会自主シンポジウム資料 (小田豊)	
(資料3) 日本保育学会自主シンポジウム資料	
8. 日本における保育の質の評価と日本版 SICS	157
箕輪潤子	
(資料1) 日本における保育の質尺度	
(資料2) 研究発表資料	

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）  
総括研究報告書

保育環境の質尺度の開発と保育研修利用に関する調査研究  
研究代表者 秋田 喜代美 東京大学大学院教育学研究科教授

研究要旨 本研究プロジェクトは、第1に保育の質に関する国際的政策や学術研究動向を調査すること、そして第2にその動向をふまえて、日本の園文化に応じた形で今後長期的に使用できる保育環境の質尺度（幼児版、乳児版）を開発すること、第3にそれを保育研修に利用することでその方法の有効性や活用法を開発検討することである。本年度は第1の目的について、SICS (Process-oriented Self-evaluation Instrument for Care Setting) との関連の視座から欧米日の保育の質の政策ならびに研究動向の検討を行ない、第2の目的について日本版のSICS（幼児版）尺度の開発を実際に行い、第3に保育所においてそのパイロット実施をふまえて、SICS研修用DVDを作成し活用実施を行った。またさらにそれを本尺度の原尺度開発者である Laevers 教授にも直接見て具体的な助言や意見交換をふまえ、次年度研究計画や乳児版作成への課題を整理した。

研究分担者氏名・所属研究機関名及び所属研究機関における職名

秋田喜代美・東京大学大学院教育学研究科教授

小田豊・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所理事長

芦田宏・兵庫県立大学環境人間学部教授

鈴木正敏・兵庫教育大学学校教育研究科准教授

門田理世・西南学院大学人間科学部准教授

野口隆子・十文字学園女子大学人間生活学部専任講師

箕輪潤子・川村学園女子大学教育学部講師

以上7名

A. 研究目的

本研究プロジェクトの目的は大きく、3点に整理することができる。第1に、保育の質、特に保育過程の質という実践の側面に関する国際的政策や学術研究動向を調査すること、第2にその調査研究動向をふまえて、日本の保育所の園文化に応じた形で今後長期的に使用できる保育環境の質尺度（幼児版、乳児版）を開発すること、さらに第3にその開発した尺度を保育所での園内研修や自己評価等の場での保育研修に利用することで、その方法の有効性や活用法を開発検討することにある。

B. 研究方法

1) 昨年19年度には、第1に関しては、ヨーロッパ、アジア各国での保育の質評価政策の動向をおさえ、第2には、ベルギーのルーベン大学 Ferre Laevers 教授による子どもの活動状況から質を問う尺度が日本の保育文化に有効であろうとの判断からその日本版作成のための翻訳、その後その尺度の妥当性に関して園長、保育者への聴き取りならびに質問紙調査を実施した。そこで本年20年度には、昨年度の研究成果を踏まえ、第1の点に関しては、特にアメリカやOECD諸国、台湾という保育の質に関する先進的な国の最新動向や日本の国内動向を単に記述するだけではなく、本研究プロジェクトで開発している日本版SICSとの関連性という視点から捉えて位置づけること、またSICS自体に関してもさらに多くの文献や国際比較研究等の知見をふまえてSICSがどのような有効性や活用法があるのかを検討することを目的とした。

2) そして第2、第3に関しては、昨年度の園長および保育者調査実施結果の分析をふまえて幼児版SICSの英語からの直訳からさらに日本語、日本の保育文化にあうよう精選改訂を行った版を、実際に1保育所で協力実施いただくこと、さらにその園で

本幼児版 SICS を完成させること、研修用 DVD に関しては、夢中度に関して撮影した 65 のビデオクリップを精査し、評定者間一致率の高い 25 クリップを選びだし、それに評定理由を付す作業を行い、SICS という自己評価方法の手順と視点を理解してもらうための DVD を、別の保育所で SICS を使用した研修を実施してもらい、その研修場面を記録し作成するという方法をとった。3) またさらに、この 1, 2 を踏まえた上で、この原尺度を開発した Laevers 教授が 2009 年 2 月 18 日から 27 日まで来日されたのを機に、この開発した日本幼児版に関して、開発の教育理念や手法について比較文化的観点から検討しあう会議を開き、また母子愛育財団の助成で委託実施されている台湾台北市立教育大学 幸曼玲教授からもその場で、台湾での使用との比較検討から、本尺度の使用可能性と課題等をしてもらう方法をとった。この検討方法により、尺度の基盤となる開発における保育学における哲学や理念が日本版に共通にみられることの確認と、それを踏まえて各文化に応じた開発がなされているか、さらにこの改訂した方法の利点と課題等という内容妥当性の検証を行った。

#### (倫理面への配慮)

1 本尺度の開発にあたっては、オリジナル尺度開発者であるベルギー Leuven 大学 Ferre Laevers 教授から学術研究において本尺度をもとに日本版を作成し、日本国で使用することについて承諾を得て実施している。

2 研修用 DVD 作成のためのビデオクリップ撮影のためには、子どもならびに保育者の撮影に関して、学術研究上の私用であることを園として承諾を得て実施し、開発した内容に関して、担当園 西南学院大学早緑子供の園にはご報告し、研究等での公開の承認を得ている。また園内研修パイロット研究としてご協力いただいたはつと保育園には、保育者の方々の園内研修の撮影を行うに際して事前に撮影の承諾を得ると共に、本 DVD を学術研究のために公開することに関する承諾を得ている。

## C. 研究結果

本報告書第 2 部の各研究分担者からの報告部分にその内容の詳細が記されている。大きくは以下の点を、研究結果として得ることが出来た。

### 1 SICS の理解と日本版 SICS の作成と研修利用

1) 第 2 部 1 章 (秋田報告) に報告されているように、SICS(Process-oriented Self-evaluation Instrument for Care Setting)理念を昨年よりもさらに国際的にどのように研究や利用されてきているのかの調査検討、小中学校での利用に関する文献や資料等も収集検討することで、乳幼児の子どもの安心度と夢中度のみではなく、保育者側の保育スタイルへの視座も ASOS(Adult Style Observation Schedule)において明確に本尺度が出されていること、そしてそれらを踏まえて英国、ポルトガル、フィンランド等では政策的に研究が実施されており、ベルギーだけではなく他でも保育の質の向上に実証的な効果をもたらしていることが明らかとなった。

また同一視点で、保育所だけではなく幼稚園、小学校、中学校、特別支援教育等にも使用可能な尺度 PALE

(Process-Oriented Analysis of Learning Environment) も開発されており、SICS の考え方は、保育所での保育過程の質尺度利用にとどまらず、21 年度 4 月実施の保育所保育指針等にも新たに挿入された保幼小連携の推進の視点からも、小学校との連携を促進していく道具となりうる可能性を、ベルギーでの実際の使用実態から明らかにした。

2) 第 2 部 2 章 (芦田報告) では、具体的に報告されているように、本プロジェクトの中核となる、日本版 SICS の作成と園内研修利用への開発プロセスにおいて報告がなされている。具体的には、日本版では、A 学級半数の子どもの安心度と夢中度を短時間でスキヤニングする手法ではなくエピソードにもとづく方法へ変え、また B 改善点のみよりも優れた点を見出す評価に変更すること、C 省察として家庭との連携という

新たな観点を入れることなどを新たに工夫して導入した。また D すべての評価を 1 度ではなく 2 度 1 週間間隔をあけての実施にすることが日本の実情等によりあうものとなった。また DVD の作成によって細かなマニュアルなしでも具体的なイメージを持って研修に取り組めるものとなった。

3) 第 2 部 3 章 (門田報告) で、報告されているように、この方法で実際に 1 園で園内研修を行っていただくことで、一定の手順を踏むことで無意識のうちに行っている保育者の見方の偏り、たとえば特定の子どもに注意を向けがちで有る、子ども達の発達を社会性の側面に注目して見ることが多いなどを少なくし、日頃とは異なる視点から捉えることができることが具体的に保育者との声として明らかになった。エピソードや評定という形で可視化することが、従来の語りのみのカンファレンスではえにくい振り返りを促し、具体的にどのように実践をすればよいのかがみえてくるということも示唆された。

と同時に 2 度にわけて行う方がより効果的であるといったことや改善点のみでなく優れた点を入れるほうがよいことなど、日本の園の実情をふまえて、具体的な改善点がみつき、それをいかしてさらに新たな園での実施により研修用の DVD を作成した。

## 2 国際的な保育の質の評価の動向と日本版 SICS の関連性

1) 第 2 部 4 章 (鈴木報告) では、OECD 参加国の中でも特に保育の質で日本にはない工夫がみられる国として、ニュージーランド、カナダ、ポルトガル等の Starting Strong Network 参加国の報告がなされた。いずれの国においても、小学校以上とは異なる形で保育過程の質が問題にされてきており、また地域や保護者に保育内容の質を説明できるようなことが求められ、保育の質向上のための根拠データが政府等で実際に実施されるための体制作りが各国で行われてきていることが報告されている。

2) 第 2 部 5 章 (門田報告) では、アメリカにおける保育の質の評価が、社会的投資、

国家レベルでの教育施策として位置づけられており、新たな全米乳幼児教育協会の基本見解からも、小学校教育の準備のためというだけではなく、発達や学びの総合的理解が主張されていて着ていることが報告された。そして保育の質を高める実践のために CLASS (Classroom Assessment Scoring System) という保育の質の評価尺度が研究に使用され、このスケール等にもとづく研究から教師教育の質の向上が求められてきていることが明らかにされた。

そして第 2 部 6 章 (野口報告) では、CLASS の内容の詳細について、実際に領域と次元が検討され、CLASS が客観的な観察評価システムであり、そのためのトレーニングツールとしてビデオクリップによるサンプルなどが準備されることでこの評価システムそのものの研修法が行われていること、またこの尺度は、Pre-K, Elementary, Secondary と言った形のものであることが報告されている。この尺度が客観的評価システムであり、学業成績との関連性を強く意識したものである一方、教師の自立的な専門性や実践知に基づくものとは異なる点も指摘されている。そして日本のように保育者や教師が自立的に専門家集団としての研修システムをもってきている文化においても、保育者自らの自己評価による方法がなじむであろうこと、また一方で CLASS のように今後幼児教育と学校教育との連携の視野もいれて尺度開発を行うことの必要性が明らかにされた。

3) 第 2 部 7 章 (小田報告) では、日本の保育評価の伝統を、同じ東アジアの国である台湾との比較から検討している。保育所保育指針の改訂と共に、学校教育法や幼稚園教育要領が行われ、保育児童要録と幼稚園指導要録の送付等が義務付けられることで、保育の質が義務教育との接続・連携の中で強く求められてきている点を指摘している。そして幼児期の保育評価の特徴として、日本においては伝統的に、子どもに対する評価と保育実践に対する評価を組み合わせた形で園内研修を実施してきていること、反省、省察と評価の一体化に特徴があ

るとしている。

また台湾の保育評価が、管理運営の実態と形態、カリキュラム内容の検討、園環境と施設の3点を中心に行われ、評価にとどまらずそこから改善プロジェクトが実際に行われ、市に報告されることを鑑み、各園が評価を通してよくなる方法を工夫している点の重要性を指摘している。そして台湾では乳幼児の教育をたしかなものにするために、保護者や地域の方々に対して社会的な責務として評価結果の公表を行っている点を、日本ではカンファレンスという独自の方法を伝統的に行ってきているがそのよさとともに閉鎖性も指摘し、研修に時に客観的な分析方法をとり入れることの必要性、そこに日本版 SICS の開発の意義を見出している。

そして第2部8章(箕輪報告)ではこれについて具体的にどのように日本における保育の質の評価がなされているのが分析され、チェックリスト方式、記録方式がありそれぞれのメリットとデメリットが整理された上で、この両面をいかした評価が今後開発されることが必要であることを指摘している。そして、日本版 SICS においてはエピソードを記録として重視し、また課題と良いところの発見という段階をとることによって、園全体での連携を高める可能性、そして第3段階のチェックリストによって、改めて客観的かつ多様な視点でふりかえることによって、いわゆるカンファレンスや記録だけでは抜け落ちてしまう部分を補完し次の保育へとつなげていく可能性を指摘している。子どもを観察することを基本とし、そこから園全体で話し合っていく過程をもつ日本版 SICS の可能性と同時に、その話し合いがどのように園全体で実施可能かがこれから残された課題であることが示唆されている。

#### D 考察

.C に述べたように、20年度実施予定の内容に関しては、順調に研究を進めることが出来てはいる。この意味で自己評価尺度というツールの幼児版は作成された。しかし

まだ、パイロット実施段階であり、園の中で年間複数回繰り返しこの日本版 SICS による自己評価によって、どのように評価と省察が行われて園としての保育の質の改善が行われたのか、具体的には子どもの夢中度を高め、保育の質を向上させることができるのかという点については、SICS を使用している諸外国ではすでに実証されているが日本ではまだそこまではいたっていない。またエピソード記録法をとり入れることによって、日本の園での実施を容易にしたが学級の子ども達全員をまずとらえペースラインを押さえた上で、質の改善の向上を調べるというデザインでの計画は実施できていない。また ECCERS や CLASS など、すでに欧米では有効とされて使用されている他の尺度と本尺度との関係等もまた今後分析検討する必要がある。そして相互にその尺度のよさをいかして、園の必要性に応じて様々な自己評価の道具を使用できるようにしていくことが、次年度以後の課題であると考えられる。

またヨーロッパやアメリカ、台湾と日本などの国内外の動向や Laevers 教授来日による SICS 展開に関する一層の資料集や理解深化と議論を通して、この幼児版尺度が幼児期のみを問題にするのではなく、乳児期から小学校以後へと生涯学習の視点をもって研究をしていくことの必要性も本年度実施によって得られた新たな課題である。

次年度には、乳児版の開発と共にこの課題にさらに取り組んでいきたいと考える。

#### E. 結論

日本の保育にあうように手順や内容において新たな観点をいれた日本版 SICS (幼児版) の開発が、実際に日本の保育者の省察や評価にとって有効である可能性がパイロット園での実施によって示唆された。と同時に今後この尺度の有効性や理論的課題も具体的に明らかになった。

#### F 健康基本状況

特に問題はない。

## G 研究発表

### 1. 論文発表

秋田喜代美 (2008) 「園内研修による保育支援: 支援者に求められる専門性に注目して」臨床発達心理実践研究, 3, 35-40.

秋田喜代美・泉千勢・榊原智子 (2008) 「鼎談 世界の保育をみる」保育の友, 56(6), 11-25.

秋田喜代美 (2008) 「保育者の専門性向上のために (1) 保育者の感性と判断を磨く」保育界, 406, 18-19.

「保育者の専門性向上のために (2) 保育を記し共に語る」保育界, 407, 26-27.

「保育者の専門性向上のために (3) 保育者の学習と同僚性」保育界, 408, 18-19.

秋田喜代美 (2008) 「保育の質の評価」保育学研究 46(2), 224.

秋田喜代美 (印刷中) 「幼児期の教育と小学校教育」ぐんまの教育

秋田喜代美 (印刷中) 「世界的に高まる保育の質」への関心—長期的な縦断研究の成果を背景に」Berd, 16, 13-17.

蒲池房子・倉掛秀人・鈴木正敏・増田まゆみ (2008) 「自己評価で保育士はどう変わるか」保育の友, 56(11), 10-25.

### 2 学会発表.

野口隆子, 芦田宏, 小田豊, 天野珠路, 幸曼玲, 門田理世 (2008). 日本保育学会第 61 回大会 自主シンポジウム, 「保育の質」と評価を考える. 2008 年 5 月 18 日

Kadota, R., Takazakura, A., Noguchi, T., Suzuki, M., Ashida, H., & Oda, Y. (2008) How Japanese perceive quality of care and education: Policy and measurement of child care settings, Paper presented European Early Childhood Education Research Association, Stavanger: Norway. 2008, 9.4<sup>th</sup>.

Minowa, J., Akita, K., Yasumi, K., Masuda, T., Nakatsubo, F., Sunagami, F. (2008) Perception of quality of care and

Education in the particular activities: Analysis of clean-up time in Japanese Preschools, Paper presented European Early Childhood Education Research Association, Stavanger: Norway. 2008, 9.4<sup>th</sup>.

## H 知的財産権の出願・登録状況

特に出願や登録はない。

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業）  
分担研究報告

SICS の理念と国際的な利用動向

代表研究者 秋田 喜代美 東京大学大学院教育学研究科

本研究は、ベルギーで開発された SICS がその後各国でどのように使用されているのか、またその有効性がどのように研究されているのかという文献の収集ならびに SICS という子どもの安心度と夢中度を調べる尺度の研究からその後どのように研究が展開されてきているのかという点を検討した。そして保育だけではなく、小学校以上の学校教育との接続との関連から資料を得て検討することで、日本版 SICS を用いた保育過程の質の研究や研修利用へのあり方を考察した。

A. 研究目的

プロジェクト初年度の昨年度には、国際的に保育の質の評価を保育過程や実践から検討する研究がどのように行われてきているのかを検討し、特にベルギーで開発された SICS が、これまで開発されてきた保育環境の質評価の手法と異なり、子どもの側からの視点で検討する尺度であり、保育者の資質向上や環境の改善に具体的にむけられたものであり、日本が伝統的に行っている実践の評価のあり方との類似性からこの尺度に注目し、日本における保育過程の質尺度の開発を実施し始めたことを報告した。

そこで本年度には理論的な基礎として、ベルギーで開発された SICS がその後その開発した国だけではなく、異なる保育制度や文化をもつ別の国々でどのように使用されているのか、またその有効性がどのように研究されているのか、また近年この子どもの安心度と夢中度から保育過程の質を評価する尺度研究はどのように研究が展開されてきているのかという点を検討することを目的とした。

B. 研究方法

SICS の開発者である Ferre Laevers 教授の関与した国際プロジェクトに関する研究報告を各国の研究者の視点から執筆した資料を収集した。特に国際プロジェクトは、Laevers, F, & Heylen, L. (Eds.)

(2003) *Involvement of children and teacher style: Insights from an international study on experiential education.* として刊行されており、ドイツ、ポルトガル、英国、フィンランド、ニカラグアとの共同研究報告がなされている。そこで、本報告では本書を中心とした。また英国では、特にこの SICS と呼ばれる尺度のうち *involvement scale* と Laevers による教師のスタイルとして開発された ASOS (Adult Style Observation Schedule) を用いて、就学前 (英国は 5 歳より就学のため) 3, 4 歳児の子どもの保育の質に関する研究プロジェクト EEL (Effective Early Learning) がイングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドにわたり展開され、質の



改善に関する報告が報告されている。そこでこれらの文献を中心に検討した。またあわせて2009年2月にFerre Laevers 教授ならびにその教授とともにアクションリサーチを行ってきた元保育者であり現在はこのSICSを中心に保育者の研修等を担当しているJulia Moons氏を招聘し、日本において実際にミーティングを行うことによって、最近の研究の展開に関して直接面接を行うとともに、資料の収集を行った。

### C. 研究結果

#### 1. ヨーロッパにおけるSICSの活用

1) ドイツ: Ulich, M. & Mayr, T. によって2年間に夢中度尺度を使用し、また子どもの観察についての実践者インタビューと現職教育で使用している。8つのデイケアセンター28クラス625人が活動スケールで評定されている。センターでの夢中度の平均しでは男女に差はみられなかった。しかし遊びの志向性には男女差が見られ、カリキュラムや仲間同士のやり取りの中でも異なる世界に生きているということが明らかになり、保育者のジェンダーへの感受性が求め合えるということが明らかになっている。またマイノリティ民族の子どもは活動水準が低いこと、特にそれらの子どもにとってリテラシーと言語において彼らの発達にふさわしいカリキュラムが与えられているのが問題とされた。また子どもの夢中度は年齢に比例して高くなるということが明らかになった。そこから3、4歳児での一人遊びにおいて年齢にふさわしいカリキュラムが保障されているのか、また幼い子どもでは異年齢よりも同年齢のほ

うがある分野ではあるのかもしれない、暗黙の年齢による規範があり、それが異年齢では年上の子と年下の子のふるまいをきめているのではないかということがあると推測されている。そしてこのような規則正しく体系的な子どもの観察を夢中度という点から行ってみることで、子どもについて新たな発見が見られることが指摘されている。ただしこのような活動は保育者にとっては日常の保育とは違う余計な仕事ととらえられがちであり、ドイツの教師文化における価値観の根本的な変革が求められるとしている。

2) ポルトガル: Nabuko, M. & Prates, S. らはポルトガルではすでにECERSなどの自己評価尺度が使用されてきていることから、子どもの夢中度を観察していくことによって実際の指導にどのような変化があるのかを見ている。ポルトガルの3つの異なる地域で計37の施設でまずECERSを使用してベースラインを測定した後、夢中度尺度を使用してそれぞれ3、4、5歳各6人(男女3名づつ)計18名の子どもの活動における夢中度が観察された。そしてクラスでの自己評価し改善を図った後での各地域でのECERSスコアも測定された。すると、かならずしもECERSスコアが高くても夢中度は高い子どもがいるクラスがあることが明らかになった。特に年齢が高い子の方が夢中度が高いという傾向がでており、必ずしもECERS-Rで測定される環境の質の水準と子ども達の活動の夢中度尺度で測定される水準は同じようにはならず比べることができないことが明らかになった。

またPortugal, G. & Santos, P. は特別な支援等を要する子どもをもつ困難な家庭

への早期介入を行なうに際して、子どもの案震度と夢中度を捉えるとともに、大人の介入において、Laevers 教授が経験に根ざした教育における保育者のかかわりとしてあげている、子どもにイニシアチブを基にした関与（自立性 Autonomy）、豊かな環境を与える（刺激 Stimulus）、そして相手の経験を想像することによる対話の展開（感受性 Sensitivity）が子どもの安定と夢中度をたかめ、子ども自身の解放（自己実現）を可能にするということ、事例研究を通して指摘している。物語やクリティカルインシデント、ケースは理論と実践の間のある空間に焦点をあてて考えるのには大変重要であるが、教師の特徴として自分の実践へ疑問をもつのは難しい点を挙げる。そして子どもの属性や家庭、文化、学校などもろもろのことに問題の原因を帰属しがちである。しかし子どもの主体性を重視する実践と家庭への早期介入支援をする活動の架け橋として、ASOS を使って保育者自身の自己省察と自己評価を足場としていくことが有効であることを示している。この ASOS を使用することによって、子どもの反応への感受性、子どもに対して適切な環境刺激を与えているか、子どもに自立性を与えているかという視点でみることで、介入の具体的な目標を明確にすることができて違った視点をえることができること、スーパーバイズする側も具体的に自立性をうながす方法の助言などができるようになることを実際の保育者の実践の語り等から示している。

3) フィンランド ; Kalliala, M. & Tahkokallio, L. らは 1998 年から 2000 年までのアクションリサーチをおこ

ない、98 年にまず自己評価をした後 99 年に改善計画を立て、2000 年にそれを振り返るという形で実施している。4 デイケアセンターのそれぞれから 4 人の教師が参加し 5 人のターゲット児を選び、夢中度尺度を実施するとともに大人側のスタイルも ASOS によって評定し、面接等を行っている。その結果子どもの夢中度は 1 園では完全に変化し残り 3 園では部分的に変化した。しかし大人に関してはそれぞれ全員が変わっているわけではない。子どもの夢中度は教師の資質によるところが大きい、しかし子ども達の集団の編成によっても夢中度は大きく変化することがわかる、

この 15 年間フィンランドでは、大人が中心となる教育方法は古い教育学と批判されることで、大人は子どもから距離をおき、子どもの現実を注意深く分析することもなく、介入しすぎないようにだけしてきていた。しかし夢中度の観察によって子どものことをよりきちんと彼らがとらえられるようになってきた。そのことが子どもの内面で生じていることを具体的によく理解することを生み出してきた。子どもの夢中度が高まることは大人の子どもの感受性が高まり、より子どもを刺激するような環境を準備し、子どもの側の自立性は低くなるということを示している。同様の英国の研究では子どもの自立性があがったのに対してフィンランドの場合には下がっている。そこには文化による相違があり、これは両国の子育ての実践や政策というマクロ部分とデイケアセンターでのやりとりというミクロ部分が影響しているだろう。英国では自立性が戦後非常に重視されてきた

が、フィンランドではそうではない。いずれの国も大人の役割が明確にされずに子どもを自由にだけしておくことで自立や自律ということがうたわれてきた。しかし自立性と刺激とのバランスをその国や文化によってどのように作っていくということがきわめて重要であることがここからは明らかになっている。

4) 英国 UK: 1993年以來4期にわたって EEL プロジェクトが実施され保育の質の改善が目指されてきている。

第1期93-94年には13の施設、52の保育者と390人の子どもたちで保育の質評価のシステムが作り出され、第2期94-95年には9の地域でさらに200の施設、800人の保育者、6000人の子どもを対象にし、質の評価の改善と方策が検討された。そして第3期の95-96年にはさらに500の施設、2300人の保育者、15000人の子どもを対象にしてデータの収集が実施され、第4期96年以來国家プロジェクトとして実施されてきている。

質の評価と改善の段階としては「1評価-2行動計画-3改善-4省察」の段階が想定されており、この1の子どもの評価において夢中度評定尺度が使用され、保育者のあり方については保育者の関与尺度 ASOS が使用されている。

大規模な数量調査結果からは、研究の結果として大人の関与には明らかな階層的関係が見られ、子どもへの感受性が子どもとの教育的やりとりの基盤となる前提条件であり、大人と子ども間の感受性と応答性が形成されるとそこで環境としての刺激が意味のあるものとなる。そして自立性(子どもにどこまでイニチア

チブをもたせて自由にさせるか)こそ効果的な教育においてもっとも挑戦的な側面であり高次の教育技能であると判断される。感受性は多くの施設の保育者において高い水準にあり、市の認証評価ももっている園のほうが無認可施設よりも感受性は高いなど施設別の感受性が占められている。

しかし全般に自立性において比較的低い水準にある。このような教育研修の効果は資格のない人ほど顕著に現れるといったことも示されている。また実際の評価やアクションプラン、それによる改善の過程について Pascal, C. & Bertram, T. (1997)に詳しく記されている。

以上、上記国際的動向から、この SICS のうち、幼児期においては夢中度尺度が保育者の観察眼を高め、資質向上にも寄与することが示唆される。そしてそのためには夢中度だけではなく、さらに ASOS という保育者側のかかわりへの省察も今後さらに検討していくことが必要であることが示唆される。

英国の研究でも記されているが、評価後の改善にはそれなりの時間を有し、特に子どもの変化に比べて保育者の変化はより時間がかかること、しかし好む中度によって環境そのものの質の変化には効果があることも期待できる。日本においても、英国とフィンランドで違いがあったように今後比較を台湾とすることでわが国の保育における特徴をこの尺度を用いることで明らかにしていくこともできるであろうと予想される。

## 2 SICS 以後の展開

SICS の着想はベルギーにおける pre-primary school の幼児教育段階から

始まっている。しかしながら夢中度尺度にもとづく観察の視点を活かし、小学校や中学校版として、PALE (Process-oriented Analysis of Learning Environment) として開発され実際に小学校や中学で使用されてきている (Laevers, 2007)。PALE においても案震度と夢中度という子どもの視点が中核にあり、子どもがどのような心的活動にとりくみ、他者と相互作用しているかが問われる。そして没頭に影響を与える要因として、集団の風土と関係、発達の水準にみあっていた刺激、子どもの活動水準、複雑な現実へどこまで迫っているかというリアリティ度、子どものイニシアチブの余地によって決まると考えられている。そして教師側のスタイルについては保育同様に、どれだけ知的刺激を与える関与ができていいのか、子どもの経験への感受性、生徒のイニシアチブ、自立性の提供という3次元で決まると考えられている。そして具体的な各時間の授業の展開とさまざまな現実の文脈要因および教師の経験と知覚によっても影響を受ける。

ベルギーフランドラ地方は英国とカリキュラム等は変わらないにもかかわらず学力が高く、その要因は子どもの授業中の夢中度の高さ、その質にあるとも言われている。

SICS の夢中度と同じ理念で、18歳までのすべての教育の質の評価と改善を実際にアクションリサーチとして進めていることが資料及び今回の来日によって詳しく知ることが出来た (資料参照)。

したがって今後このPALE等も射程に入れながら、保幼小連携における保育者、教師の交流の視点としても保育所のため

の日本版SICSの開発をしていくことが可能であろうと考えられる。

#### D. 結論

SICS、中でも夢中度尺度を使用した幼児への研究はヨーロッパでは盛んに利用実施され、複数回の使用によって事前評価—改善—事後評価スタイルで、本尺度が質の改善に有効であることがベルギー以外の国でも明らかにされてきている。また同時にこれは保育者の実践の省察や資質向上に対しても一定の効果を持ちうることを示していることが明らかとなった。

ただし同じ尺度を使用しても、国によって改善の方向性等には違いが見られることも明らかになった。

またSICSは乳幼児にとどまらず、就学後段階の教師とも連携使用していただける可能性もPALEという尺度からは示唆される。

日本ではまだ日本版SICS 幼児版を作成したばかりであるが、今後この尺度をすでに実施している諸国に学び自己評価に役立てていくこと、そしてそれを研究によって実証的な証拠を示していくことの必要性が考えられる。

#### 引用文献

- Kalliala, M. & Tahkokallio, L. (2003) The adult role in Finnish early childhood education and care. In Laevers, F, & Heylen, L. (Eds.) (2003) *Involvement of children and teacher style: Insights from an international study on experiential education.* Leuven: Leuven University Press. pp93-110.
- Laevers, F, (1998) *Understanding the world of objects and of people:*

- Intuition as the core element of deep Level learning, *International Journal of Educational Research*, 29, 69-86.
- Laevers, F., Bogaerts, M. & Moons, J. (1996) *Experiential education at work: A setting with 5years old. Manual.* Leuven:Belgium CEGO.
- Laevers, F., Vandernbussche, E., Kog, M. & Depondt, L. (1997) *A process-oriented child monitoring system for young children.* Leuven:Belgium CEGO.
- Laevers, F. & Heylen, L. (Eds.) (2003) *Involvement of children and teacher style: Insights from an international study on experiential education.* Leuven:Leuven University Press. pp. 189.
- Laevers, F. (2007) *PALE. A Guide for a Process-oriented analysis of learning environments.* Leuven: Research Centre for Experiential Education.
- Nabuko, M. & Prates, S. (2003) *Improving the quality of early childhood education from within.* In Laevers, F, & Heylen, L. (Eds.) (2003) *Involvement of children and teacher style: Insights from an international study on experiential education.* Leuven:Leuven University Press. pp43-60.
- Pascal, C. & Bertram, T. (1997) *Effective early learning: Case studies in improvement.* London: Paul Chapman Publishing.
- Pascal, C. & Bertram, T. (2003) *The quality of adult engagement in early childhood settings in the UK.* In Laevers, F, & Heylen, L. (Eds.) (2003) *Involvement of children and teacher style: Insights from an international study on experiential education.* Leuven:Leuven University Press. P77-92.
- Portugal, G. & Santos, P. (2003) *Enabling and empowering early intervention professionals.* In Laevers, F, & Heylen, L. (Eds.) (2003) *Involvement of children and teacher style: Insights from an international study on experiential education.* Leuven:Leuven University Press. P129-142
- Ulich, M. & Mayr, T. (2003) *Implementing the involvement scales in Germany day care centres:Practitioners perspectives, theoretical issues, empirical findings.* In Laevers, F, & Heylen, L. (Eds.) (2003) *Involvement of children and teacher style: Insights from an international study on experiential education.* Leuven:Leuven University Press. P25-41.

**Improving Quality in Early Childhood Education**

**Well-being and Involvement of children as the keys**

Ferre Laevers & Julia Moons  
Centre for Experiential Education  
University of Leuven - Belgium

**PART 1**

**The process oriented approach**



**Domains**

Early childhood education & care  
Primary education  
Special education  
Residential setting for handicapped  
Secondary education  
Higher education  
In service training  
Out of school care  
Gifted and talented  
Theatre & television for children  
ICT programs for children  
... Care for elderly

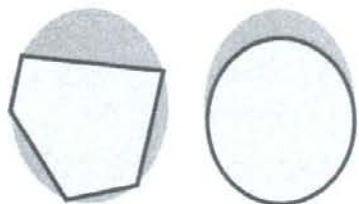
Concepts and instruments for...

**Well-being**

When children...

- feel at ease
- act spontaneously
- are open to the world and accessible
- express inner rest and relaxation
- show vitality and self-confidence
- enjoy life
- are in touch with their feelings and emotions

### *Emotional health*



'Structure-bound' vs. 'Being in touch'

### *Well-being*

When children...

- feel at ease
- act spontaneously
- are open to the world and accessible
- express inner rest and relaxation
- show vitality and self-confidence
- are in touch with their feelings and emotions
- enjoy life

...we know that their mental health is secured

### *Involvement*

When children are...

- concentrated and focussed
- interested, motivated, fascinated
- mentally active
- fully experiencing sensations and meanings
- enjoying the satisfaction of the exploratory drive
- operating at the very limits of their capabilities

...we know that deep level learning is taking place

### *THE ZONE OF PROXIMAL DEVELOPMENT*



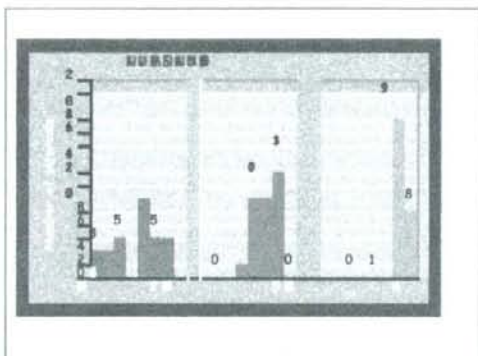
### *The Leuven Involvement Scale*

5 levels

- > 1 No activity
- > 2 Interrupted activity
- > 3 Activity without intensity
- > 4 Activity with intense moments
- > 5 Continuous intense activity

### *The scale for in-service training*

- > 1 Very boring – I stayed because it was impossible to leave
- > 3 I heard it all, but nothing really caught my attention
- > 5 I'm impressed by fascinating thoughts that carry me away



## PART 2

# The Process Oriented Child Monitoring System

**PROCESSED**  
**ORIENTED**  
**CHILD MONITORING**  
**SYSTEM**

Fig 1: Moving towards becoming self-fulfilling

⇒ NAME: Ward / 5 years

⇒ BACKGROUND

- adopted from Latin America at an early age
- has a younger sister also adopted (from India)
- parents give a positive impression: are concerned
- maybe they over-estimate Ward

⇒ GLOBAL IMPRESSION

- his movements are stiff, inhibited
- has little contact with other children
- little expression, always the same face
- difficult to say how he feels

Fig 2: Initial assessment of multiple skills

### WARD's well-being in 4 relational fields

Relation with the teacher	Relation with the environm.
<ul style="list-style-type: none"> <li>-has no real contact with me</li> <li>-feels uneasy when I talk to him (no eye contact)</li> <li>-doesn't dare to say his opinion</li> <li>-is very obedient: does exactly what I ask</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-doesn't feel at ease in circle time</li> <li>-doesn't say a word if not invited to speak</li> <li>-chooses the quiet and "safe" activities: a puzzle that he knows already, colouring...</li> </ul>
Relations with peer group	Relations at home
<ul style="list-style-type: none"> <li>-little contact with other children</li> <li>-mostly with less confident ones</li> <li>-then: dominating / teasing (see incident with chair)</li> <li>-panics when he gets a remark</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>-he never tells about his home or about his sister</li> <li>-the same behaviour as at school: rather quiet and closed (according to his parents)</li> </ul>

### PROCESS ORIENTED CHILD MONITORING SYSTEM [POMS]

EVOLUTION OF 5 CHILDREN:  
OCTOBER → FEBRUARY



Table with columns: Name, Involvement, Competence, Comments. It lists various children and their scores in these categories.

*The Process Oriented Child Monitoring System*

**Practicability**

- capitalises on 'stored' information
- easily trainable

**Range**

- covering cognitive AND emotional devel.

**Impact**

- immediate feedback concerning possible interventions

**Validity**

- conclusive assessment of risk of stagnation

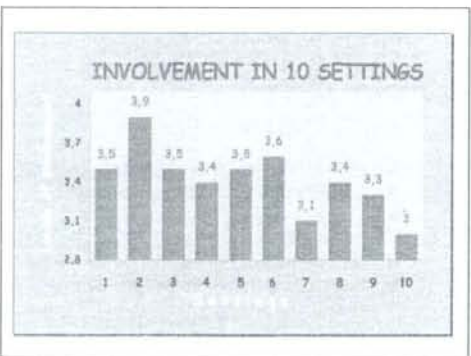
*Process or product-oriented?*

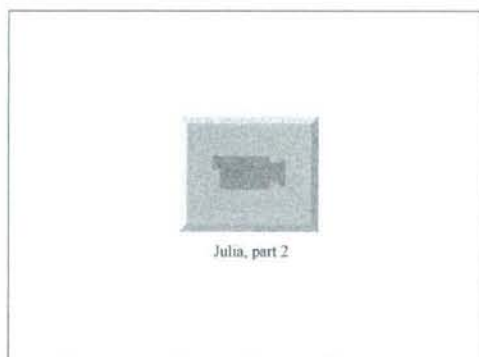
Name	Involvement	Competence	Comments
Bart	1 2 3 4 5 (4)	1 2 3 4 5 (5)	loves maths
Els	(2) 3 4 5	(2) 3 4 5	gives up easily
Jamal	1 (1) 3 4 5	1 2 3 4 (2)	afraid to make mistakes
Hans	1 (1) 3 4 5	1 2 3 4 (2)	finds maths boring
Daan	1 2 3 (4) 5	(2) 3 4 5	holds on to material

*Excerpt from the "Process-oriented Monitoring System"  
Subject: mathematics in first grade of primary school*

**PART 3**

**How to promote Well-being and Involvement?**





- ### The 10 Action Points
- Create a rich environment ① ② ③
  - Offer activities based on observation ④
  - Stimulate activ. with open impulses ⑤
  - Give room for child initiative ⑥
  - Build up positive relations ⑦
  - Explore the world of feelings, behaviour & values ⑧
  - Support children with special needs ⑨ ⑩

- ### CREATE A RICH ENVIRONMENT
- rearrange the space in appealing areas
  - check the content of the corners and make them richer
- [ACTION POINTS 1 □ 2]

- ### OBSERVE CHILDREN & OFFER ACTIVITIES THAT MEET THEIR INTERESTS
- rich environment as starting point
  - identify what is really meaningful
  - find activities that match these interests
  - let one activity grow out of the other
  - have more than one project at the time
- [ACTION POINT 4]

- ### Publications
- ⇒ The Leuven Involvement Scale: Training Pack [Video + Manual 29 fragments]
  - ⇒ Enhancing Well-being and involvement: The ten Action Points [100 slides + voice over]
  - ⇒ A Box full of Feelings [play&learn-set]
  - ⇒ Experiential Education at Work [Video of Julia's class + guide]
  - ⇒ The Process-Oriented Child Monitoring System [Manual + Forms + Interventions]
  - ⇒ Research on Experiential Education [Reader including 5 articles]

## Publications

- ⇒ The Process-Oriented Child Monitoring System [Manual + Forms + interventions]
- ⇒ Enhancing Well-being and involvement: The ten Action Points [100 slides + voice over]
- ⇒ Experiential Education at Work [Video of Julia's class + guide]

## PART 4

## Supporting children with emotional needs

## IMPACT

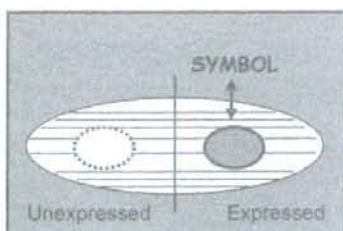
- alertness to utterances of feelings
- more differentiated vocabulary
- sharpened intuitions
- more developed role taking capacity
- better coping with painful experiences
- inner calm and serenity
  - ➔ mental health and social competence

### Nanette Smith, on the BBC-series "Teaching Today":

"We've only used the Box Full of Feelings for seven weeks, already we've seen a big, significant difference. (-)

It's certain, we can sense a general feeling of protectiveness, awareness, friendship and empathy in the children, which wasn't there before."

- To express is to impress (Gendlin)



- External representation

my eyes met a class in a room of red.  
I heard your van de post  
je moet ons redden  
  
een was het gelaan  
Ivan was het bij  
tot ging we nu de bus weg naar  
school

### Relationships as part of a 'powerful learning environment'

### Empathy scale: level 1

- Ch.: (laughs because the adult corrects another child's pronunciation)
- T.: "John, I don't think that is funny! You don't always pronounce all the words correctly either, do you? It will be our turn to laugh then!"

ADULT reprimands /  
punishes threatens /is  
irritated / hits at the  
child as a person

CHILD feels rejected,  
turned down, criticized  
not accepted /  
experiences a negative  
attitude

### Empathy scale: level 2

- Ch.: (shouts) "Yeah! I will play in the dolls' house!"
- A.: "No! Certainly not! Children who shout can't play in the doll's house!"

ADULT ignores the  
child - passes over the  
obvious content of the  
child's communication.

CHILD feels neglected,  
misunderstood - is  
hampered in efforts to  
communicate.

### Empathy scale: level 3

- Ch.: "Ten more days and it's my birthday!"
- A.: "Yes, it is. And can you count on your fingers how old you will be?"
- Ch.: (counts).

ADULT responds to the  
child, but passes over  
the essential meaning of  
the communication.

CHILD experiences  
that some attention -  
yet, doesn't feel  
completely understood

### Empathy scale: level 4

- Ch.: running away from Robin-with-tiger-mask - panic-stricken and screaming,
- T.: "You are afraid of the tiger?" (pulling the child on her lap) - Ch.: (nods)
- T.: "You are afraid that he will bite or eat you?" - Ch.: (nods violently and starts breathing more calmly).

ADULT shows consideration for the actual experiences, interests, wishes or needs of the child.

CHILD feels understood,  
accepted and encouraged  
to be oneself and to fully  
express oneself.

### The „Adult Style Observation Schedule“ [ASOS]

- ⇒ Sensitivity  
respect, understanding of needs  
and emotional support
- ⇒ Stimulating interventions  
open impulses that engender  
involvement
- ⇒ Autonomy  
support of child initiative and  
child participation